

けいはんなアバターチャレンジ・プレ大会2023開催とアバター製作

代表企業：（特非）けいはんなアバターチャレンジ、構成企業：（株）Keigan
実施期間：令和5年8月16日～令和6年2月9日

<事業の目的>

2025大阪・関西万博のときに開催する第1回アバターチャレンジは、けいはんな住民が遠隔操作型ロボット（アバター）を作り、さらに各地区の競技も企画して、精華町の精華大通り等の広い歩道を使った安心安全なアバター競技会を催すことが目標である。そのため、今回のプレ大会の目的は以下とした。

- ① 様々な住民がアバター向けの競技会を企画・参加できることを示す。
- ② 今回のプレ大会をけいはんなプラザ前の日時計周りで行い、屋内用に設計されたTelepresence Robotでも安全な歩道走行ができることを示す。
- ③ 2025年に向け、路上走行に適したAvatar Formula 3を最小限の仕様で実際に作り上げ、プレ大会で試行運転し、性能を立証する。
- ④ 屋外でもStarlinkとWi-Fiによりアバターをインターネット経由で操縦できることを示す。
- ⑤ 万博以後、継続的に開催する場合の経費を算定する。

<事業の実績（成果）>

- ① 2023年11月19日にけいはんなプラザ前の日時計広場で開催した。観客は約300人。
- ② 企画した競技は障害物競走と買い物競争であり、参加ワークス数（アバター提供者と競技者の組）は15。自作ロボットによる参加が5（内アバター製作者は大学2、メーカー1）、NPOもしくは(株)国際電気通信基礎技術研究所（ATR）提供のアバターでの参加が10。
- ③ 競技者の観点では、企業7、大学3、家族等5、**年齢は小学生（9歳）からシニア（82歳）までというダイバーシティにあふれた大会**となった。
- ④ 参加アバターは、下記左から(株)Keigan、京都先端科学大学、大阪電気通信大学の自作アバター、その右が市販のKeiganALIとDouble Robotics社Double3である。**左端は、プレ大会用に(株)Keiganに発注したアバターで、競技会で第1位を獲得し、所望の性能を確認できた。**



- ⑤ 屋外のけいはんなプラザ前の日時計広場にStarlinkを使ったWi-Fi環境を構築して実施できることが分かった。
- ⑥ （公社）2025年日本国際博覧会協会等19組織の後援を受け、「けいはんなアバターチャレンジ2023プレ大会」を**TEAM EXPO 2025共創チャレンジのイベント**として幅広い支持を受けた。
- ⑦ 大会当日の音響設定、Wi-Fi設定を除くすべての作業を理事9人で実施。うち**6人は60歳以上のシニアで、普段は会社の社長として部下を指揮している。イベント機材の配置、PCやサーバのアプリの設定等の実作業にシニアが直接従事し、一般のイベントとは一線を画したと自負している。**

<今後の展望>

- けいはんな学研都市は、大阪・京都・奈良3府県の8市町に点在した13拠点からなる広域連携都市である。2025年の第1回アバターチャレンジで、TEAM EXPO 2025共創チャレンジであることを活かし、夢洲との連携イベントを企画したい。
- 今回は、けいはんなプラザ前の日時計広場での開催となったが、原理的に世界中から操縦者として参加することが可能な大会であるため、2025は世界大会的なイベントを狙っていききたい。
- 大会運営へのさらなるくシニアの参加、それに若者が加わるダイバーシティにあふれた「けいはんな」のお祭りに成長していきたい。

